

城野ゼロ・カーボン先進街区 景観形成基本方針

平成25年2月

城野分屯地跡地処理計画策定協議会

目 次

0. 目 的	
1. 対象地区の概要	1
1-1 地区の概要	1
1-2 土地利用計画（平成24年5月認可）	2
2. 景観形成の基本コンセプト	4
2-1 景観形成の目標	4
2-2 景観形成への取り組み	5
3. 色彩に関する分析	9

0. 目 的

「城野ゼロ・カーボン先進街区景観形成基本方針（案）」は、同街区における民間企業誘導や土地処分に際して、関係者間共通の景観形成の指針となるよう定めるものである。また、城野駅北土地区画整理事業エリアと、同時期に整備される城野駅北口駅前広場、自由通路との一体的景観形成を図ることも意図している。

1. 対象地区の概要

1-1 地区の概要

○対象地区

・城野駅北土地区画整理事業 及び 城野駅北口駅前広場・自由通路等整備事業

○小倉都心に近接

・小倉都心の南東約3kmに位置する。

○高い交通利便性

・JR城野駅及び国道10号に隣接し、城野駅から小倉駅まで鉄道で10分、地区南北のバス停から都心部までバスで15分など北九州市都心部への交通利便性が高い。

○分屯地跡地と城野団地を中心とした地区

・自衛隊分屯地跡地が広大な未利用地として残されている。
 ・UR城野団地は団地再生事業（集約型）を予定。

○周辺環境

・東側に足立山を臨み、山麓部の豊かな環境を有す。
 ・周辺は官公庁宿舍、県警施設、特別支援学校等のほか、店舗、事務所、戸建住宅、マンション等が混在している地域。



対象地区の位置



対象地区の状況

土地地区画整理事業の概要

事業名称	北九州市計画事業 城野駅北土地区画整理事業
施行者	独立行政法人都市再生機構
地区面積	約18.9ha ※
施行期間	平成24年度～平成28年度まで（清算期間5年を除く）
事業費	約54億円
計画人口等	約2,300人（約1,000戸）

※土地地区画整理事業区域＝城野ゼロ・カーボン先進街区エリア



将来イメージ

1-2 土地利用計画（平成 24 年 5 月認可）

○1号街区公園（エコパーク）

- ・太刀洗池(通称)、既存樹を活かした憩いの場



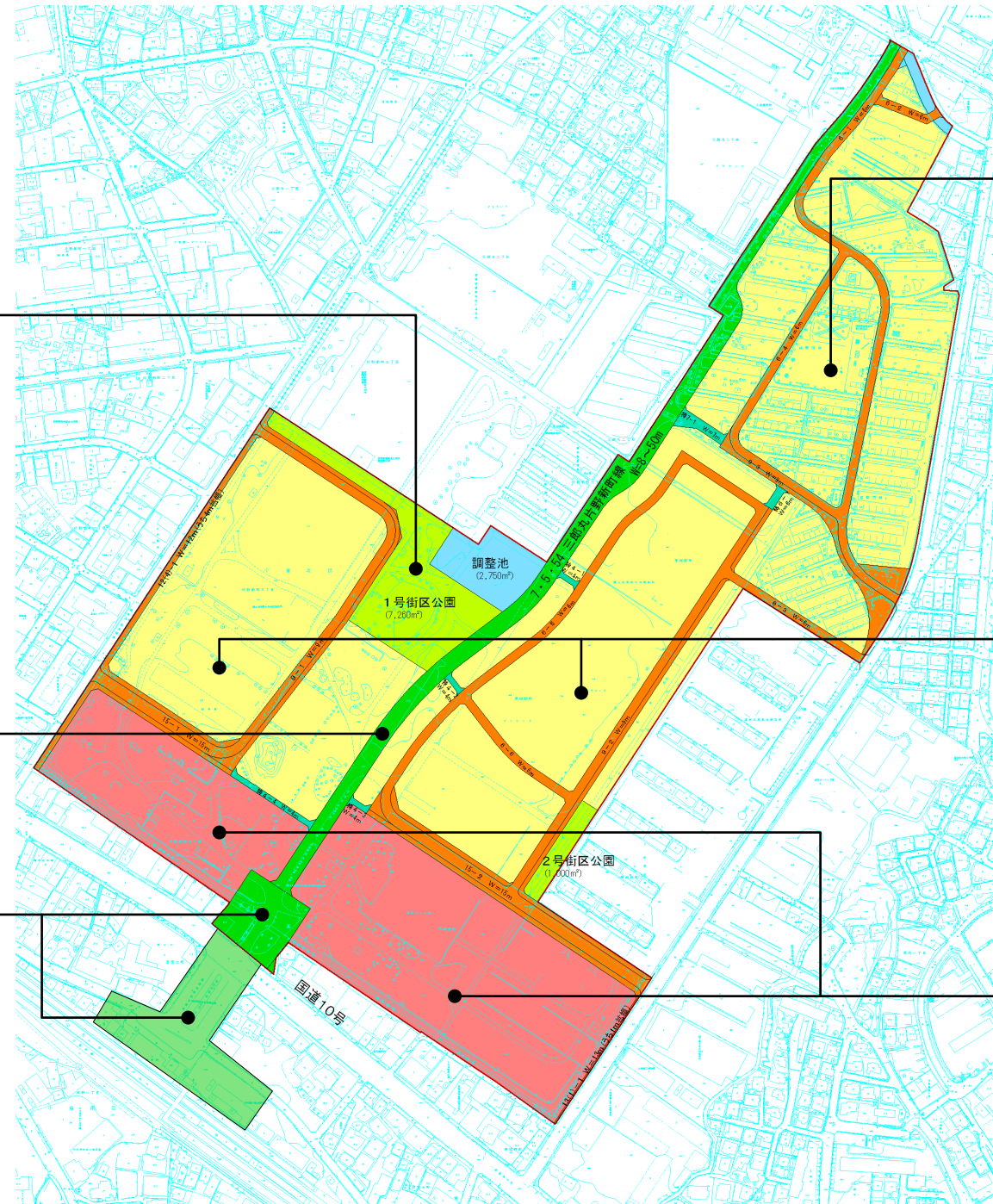
○エコモール

- ・沿道建物の低層部は店舗を誘導
- ・交流を促す空間の形成



○エコフロント、北口駅前広場、自由通路

- ・国道 10 号及び駅へつながる街の顔としてのしつらえ



○住宅地区（UR 城野団地＋市営住宅）

- ・UR 城野団地（再生事業中）及び市営住宅などで構成される中層集合住宅とテラスハウスを中心とした街区
- ・豊かな緑の継承と団地再生による新たな景観の形成



○低中層住宅地区

- ・戸建て住宅街区
- ・緑に包まれた快適な住環境の形成



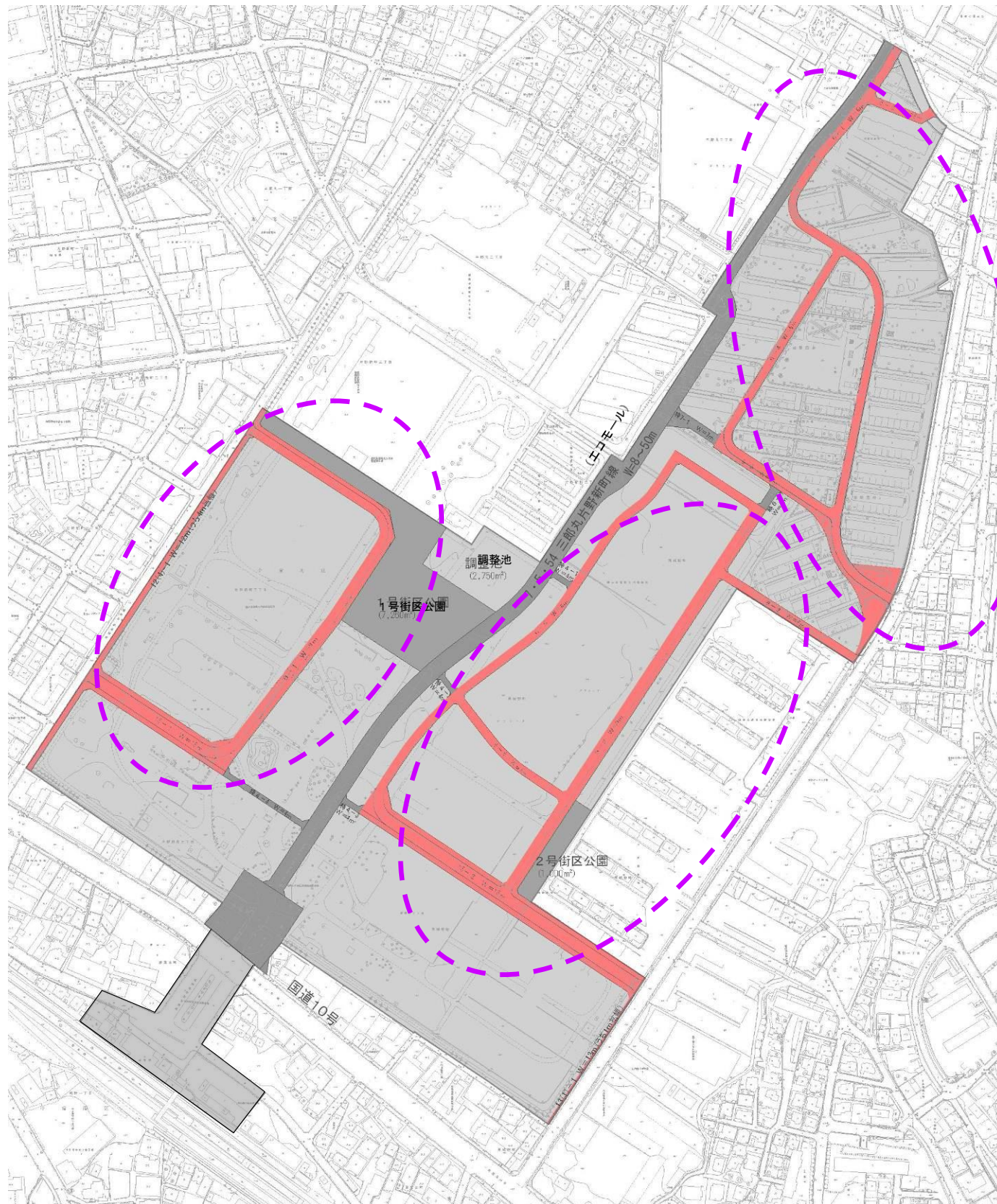
○中高層住宅・生活利便施設用地

- ・中高層の集合住宅、物販・飲食店、医療施設や介護・福祉施設等を誘導



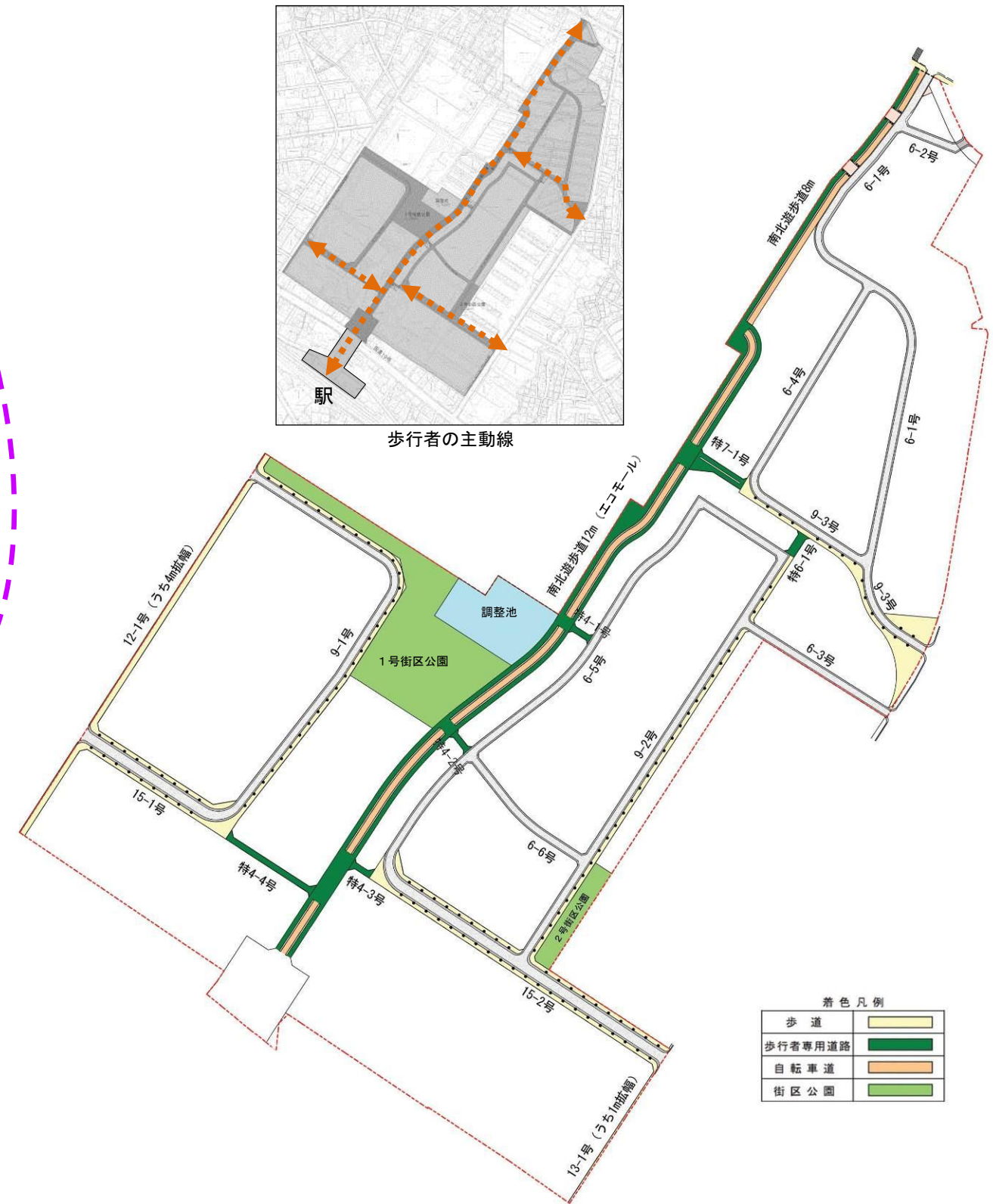
○車道

- ・通過交通を抑制するループ状の計画



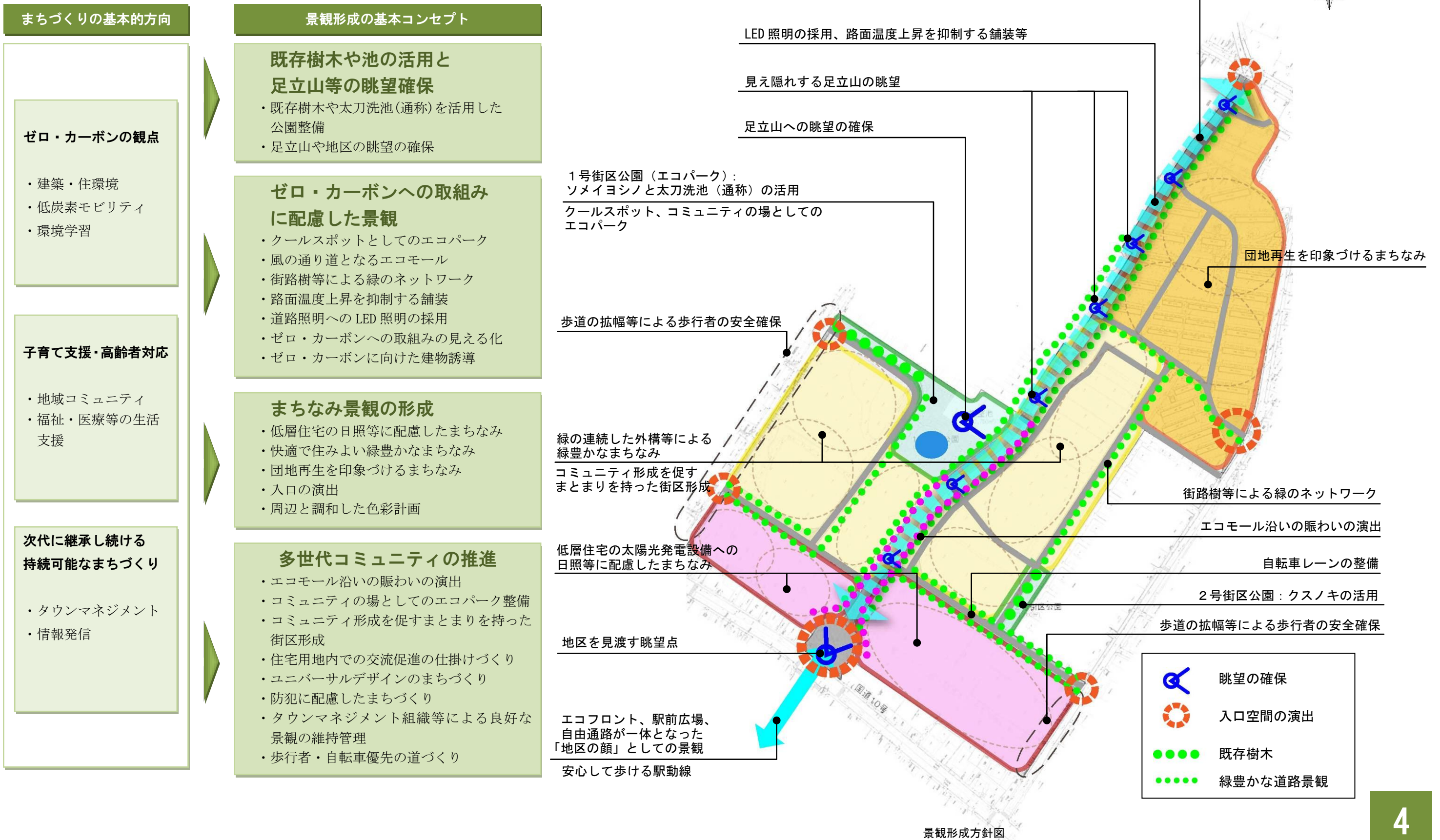
○歩道・自転車道等

- ・安全で快適に移動できるネットワークの形成



2. 景観形成の基本コンセプト

2-1 景観形成の目標



2-2 景観形成への取り組み

既存樹木や池の活用と足立山等の眺望確保

○既存樹木や太刀洗池(通称)を活用した公園整備

- ・ 1号街区公園(エコパーク) : ソメイヨシノと太刀洗池(通称)の活用
- ・ 2号街区公園 : クスノキの活用

○足立山や地区の眺望の確保

- ・ エコパーク、エコモール等からの眺望の確保



1号街区公園(エコパーク)から足立山への眺望の確保(イメージ)



地区を見渡す眺望(イメージ)



ソメイヨシノの活用



太刀洗池(通称)の活用

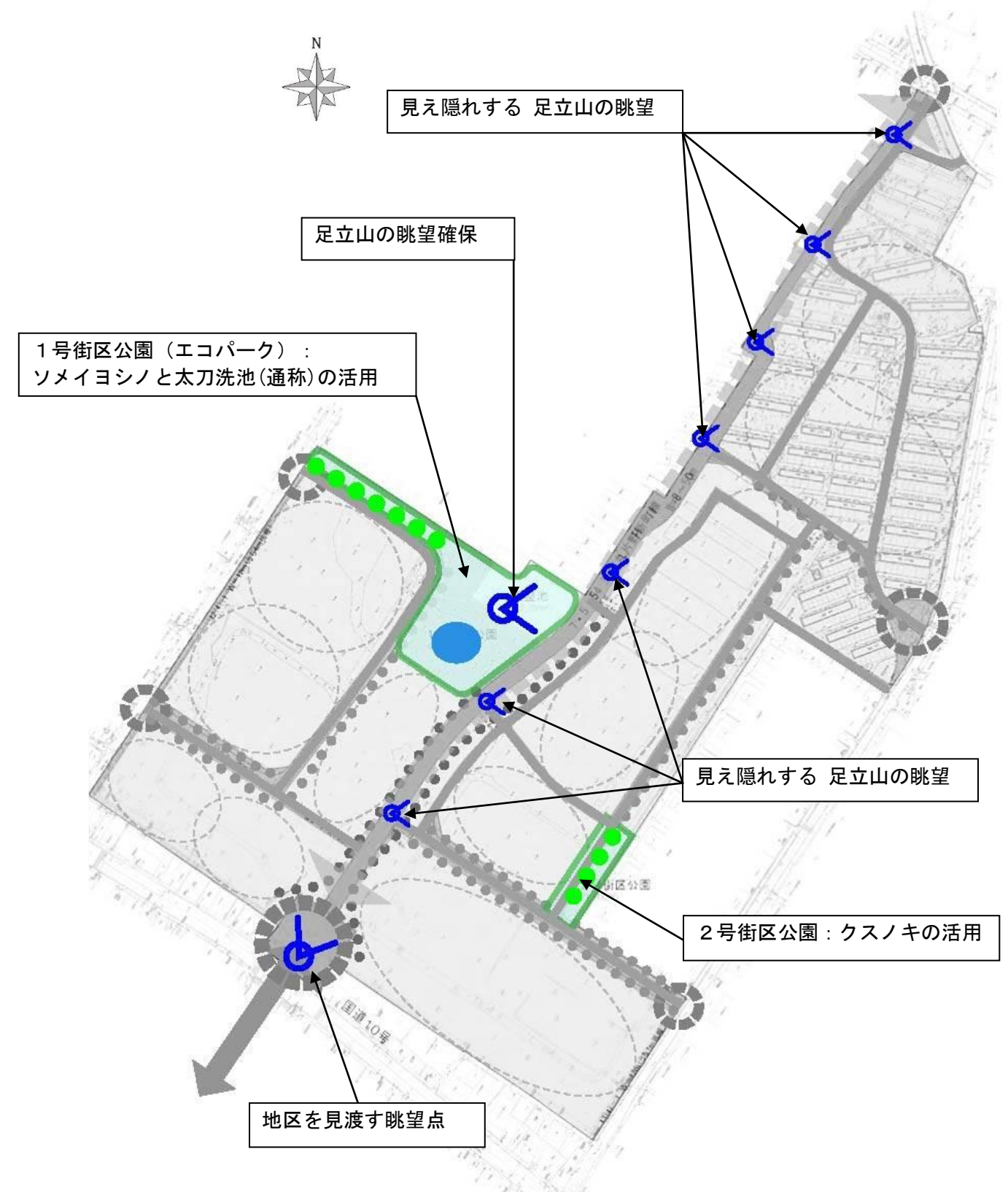


既存景観の1号街区公園(エコパーク)への活用



クスノキの活用

既存景観の2号街区公園への活用



ゼロ・カーボンへの取組みに配慮した景観

○クールスポットとしてのエコパーク

- ・既存樹木や太刀洗池(通称)などの保全によるクールスポット創出

○風の通り道となるエコモール

- ・風の通り道の確保 ※
- ・ゼロ・カーボンを象徴する緑の軸

○街路樹等による緑のネットワーク

- ・連続性のある緑景観の形成

○路面温度上昇を抑制する舗装

- ・保水性舗装、遮熱性舗装等

○道路照明へのLED照明の採用

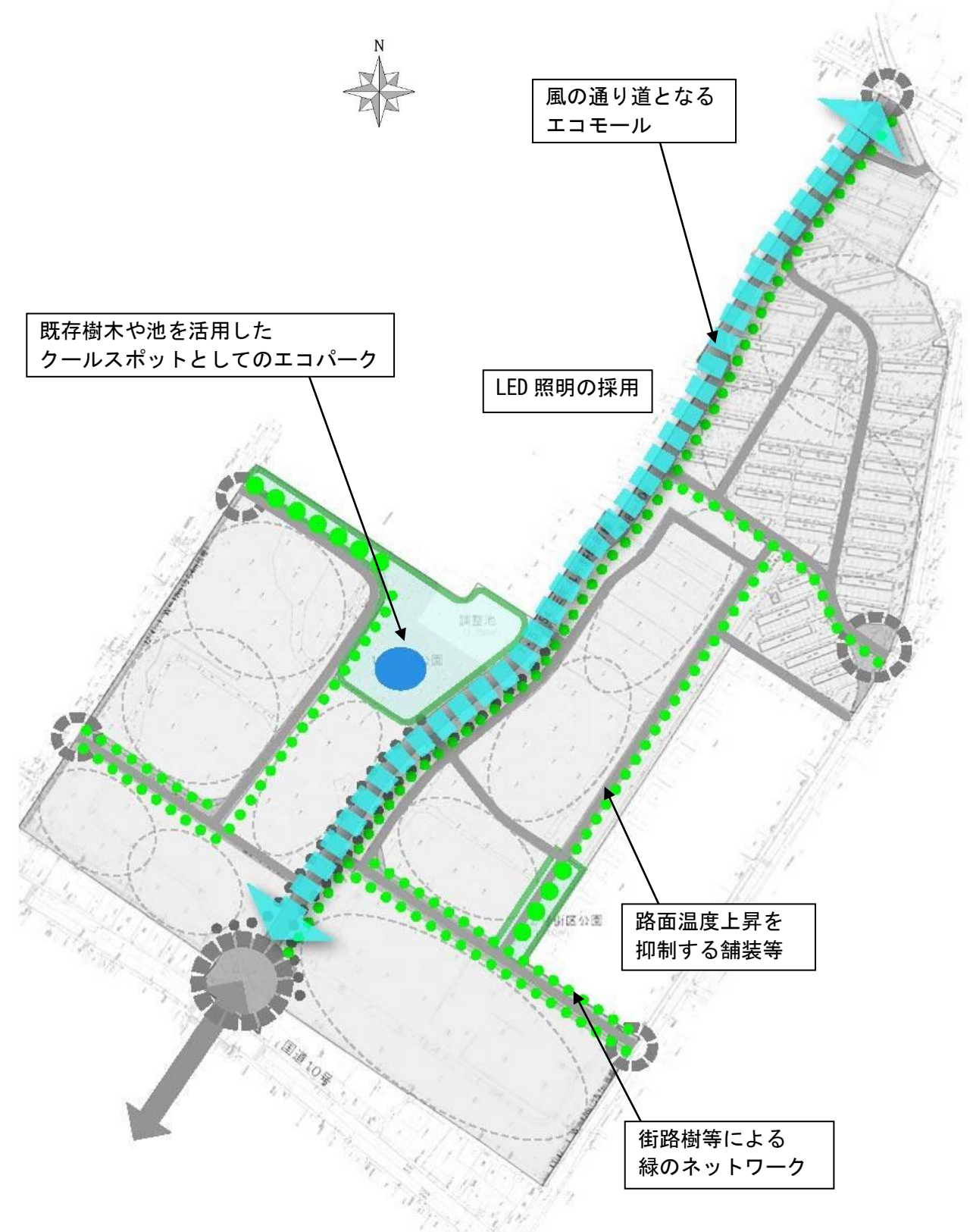
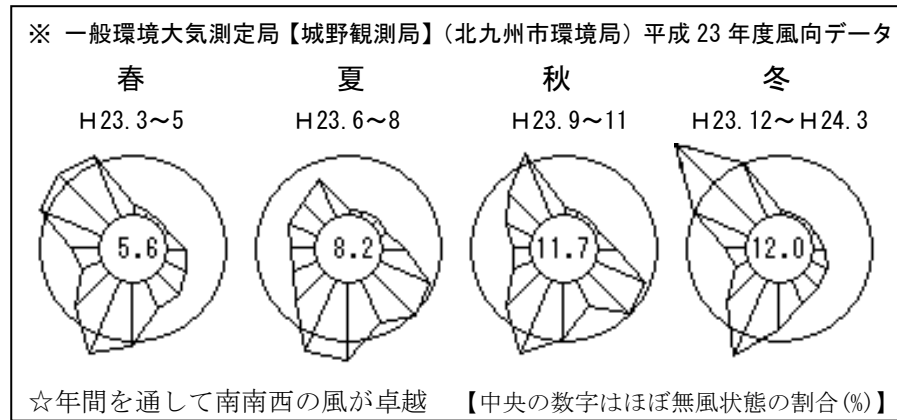
- ・省エネルギーの推進

○ゼロ・カーボンへの取組みの見える化

- ・太陽光パネル付き休憩施設等

○ゼロ・カーボンに向けた建物誘導

- ・城野ゼロ・カーボン先進街区まちづくりガイドラインに基づく誘導



クールスポットとしてのエコパーク(イメージ)



風の通り道に配慮したエコモール(イメージ)



街路樹による緑のネットワーク(イメージ)



保水性舗装・遮熱性舗装等(イメージ)



太陽光パネル付き休憩施設(イメージ)

まちなみ景観の形成

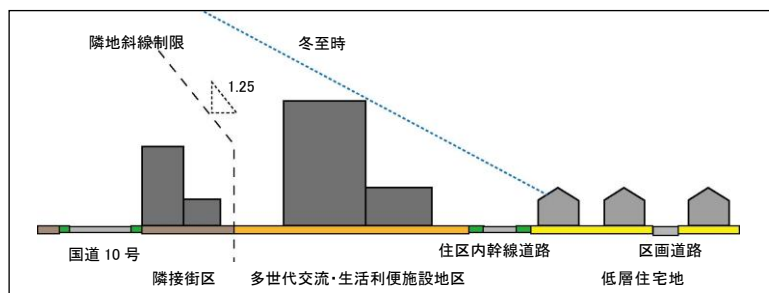
- 低層住宅の日照等に配慮したまちなみ〔中高層住宅・生活利便施設用地〕
 - ・低層住宅の屋根部分に設置される太陽光発電設備への日照等に配慮したまちなみ・建築計画
 - ・周辺と調和する色彩計画
- 快適で住みよい緑豊かなまちなみ〔低中層住宅用地〕
 - ・緑の連続した外構・オープン外構等による緑豊かな景観の形成
 - ・共有スペース創出等によるゆとりあるまちなみ
- 団地再生を印象づけるまちなみ〔UR 城野団地〕
 - ・刷新性があり低層住宅地とも馴染むまちなみ景観の形成（建築計画・外壁デザイン）
 - ・周辺と調和しつつ、生き活きとした団地再生を印象づける色彩計画
- 入口の演出
 - ・地区の入口空間の演出
 - ・エコフロント、北口駅前広場、自由通路が一体となった「地区の顔」としての景観形成
 - ・境界道路歩道の拡幅等による歩行者の安全確保
- 色彩計画
 - ・周辺（市街地及び足立山等）と調和した色彩計画



地区の顔となるエコフロントから駅までの景観（イメージ）



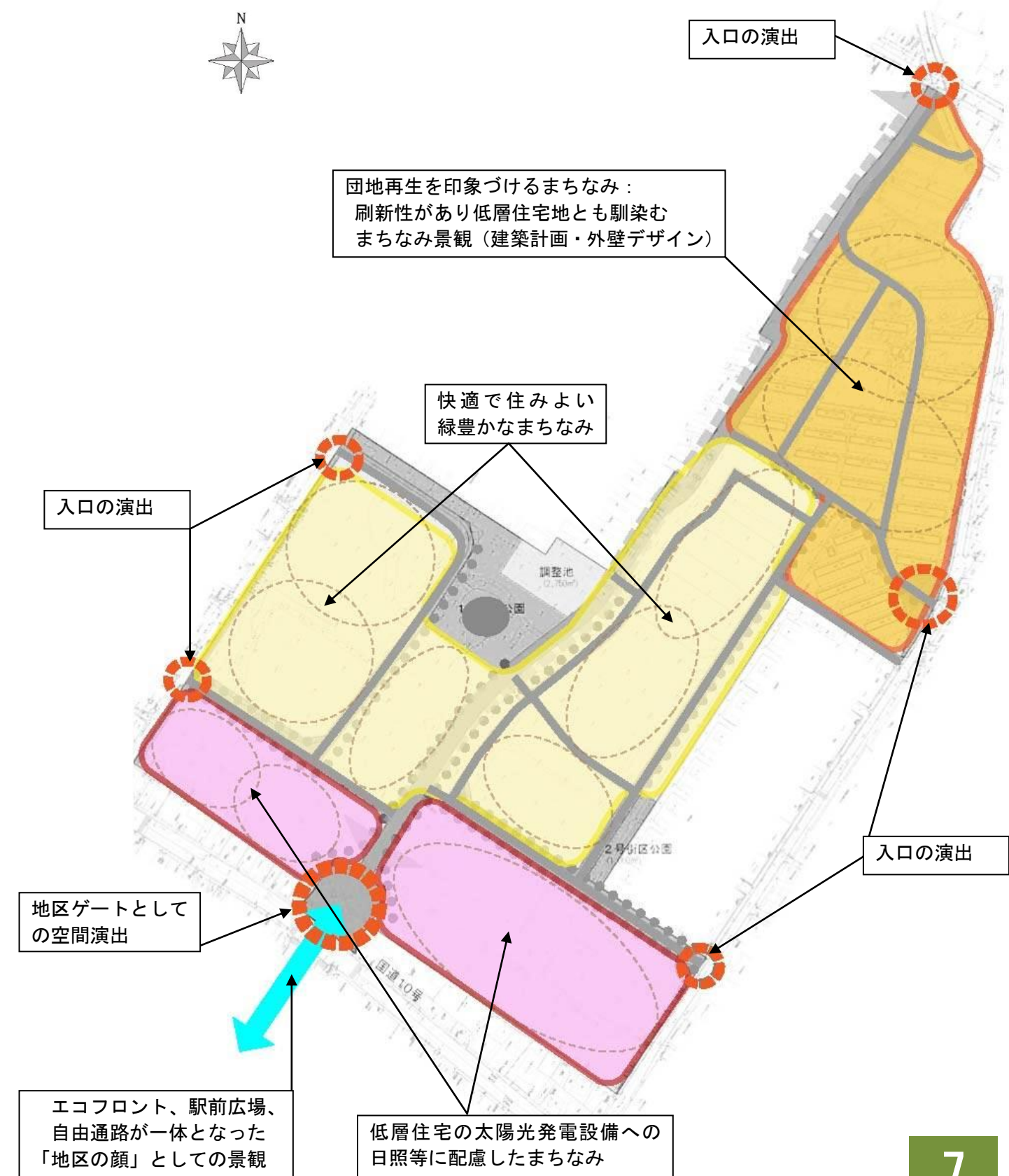
緑豊かな住宅用地の景観（イメージ）



低層住宅の太陽光発電設備への日照等に配慮したまちなみ



団地再生を印象付けるまちなみ（イメージ）



多世代コミュニティの推進

- エコモール沿いの賑わいの演出
 - ・賑わいを形成する店舗等の誘致
 - ・エコモールに沿ったオープンカフェ等の賑わい空間形成
- コミュニティの場としてのエコパーク整備
 - ・芝生の広場等、多目的に使える空間の整備
- コミュニティ形成を促すまとまりを持った街区形成
 - ・住宅用地を適度の大きさを持つ、まとまりのある街区として整備
- 住宅用地内での交流促進の仕掛けづくり
 - ・共有地の創出、緑豊かな外構による交流促進
- ユニバーサルデザインのまちづくり
- 防犯に配慮したまちづくり
 - ・視線を遮らない植栽等
- タウンマネジメント組織等による良好な景観の維持管理
 - ・多様な主体によるマネジメント組織による活動
- 歩行者・自転車優先の道づくり
 - ・自転車レーンの整備、安心して歩ける駅からの動線
 - ・地区界道路の歩道拡幅による歩行者の安全確保



にぎわいを生み出すエコモール（イメージ）



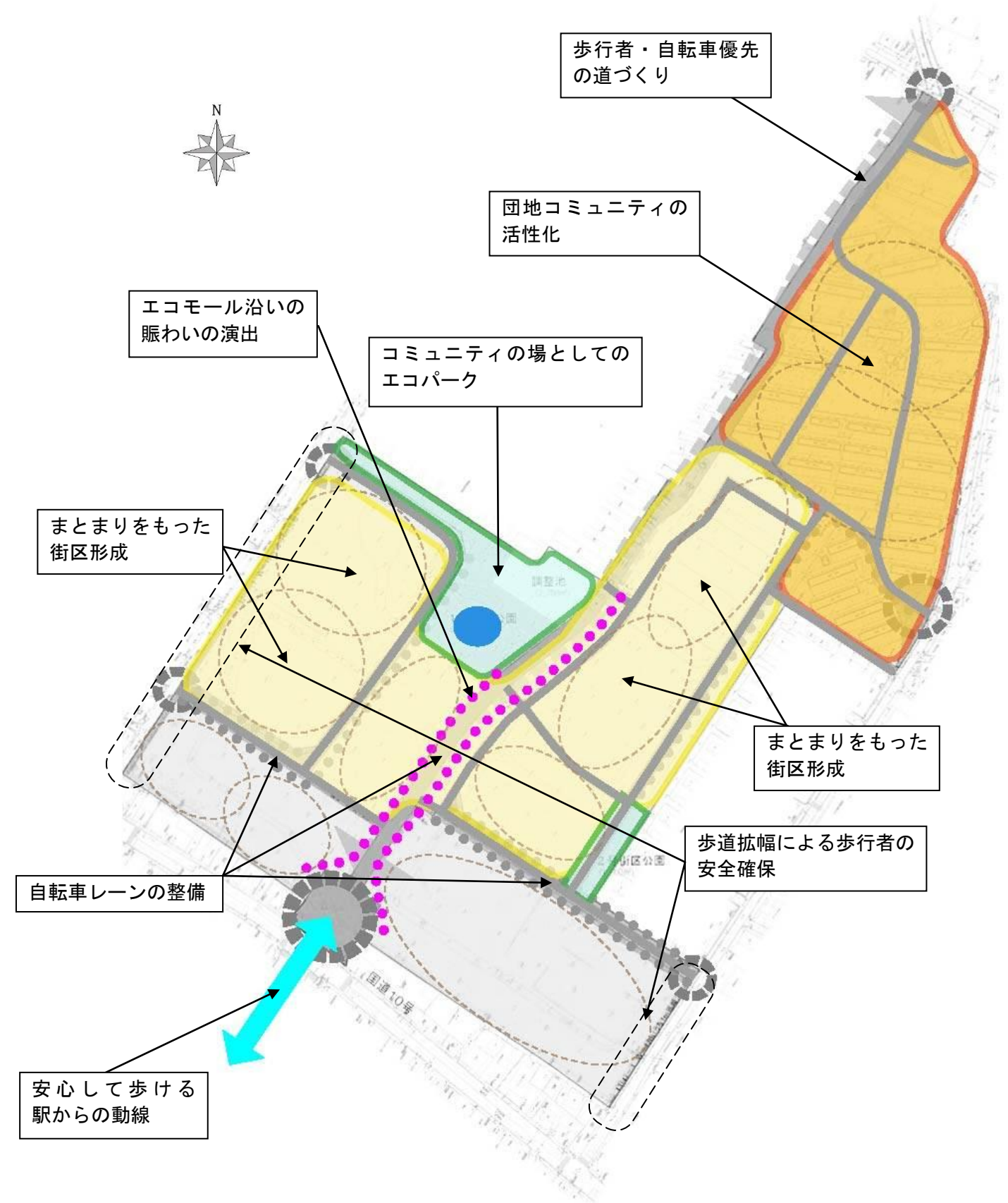
人々の交流の場としてのエコパーク（イメージ）



店舗等による賑わいの創出（イメージ）

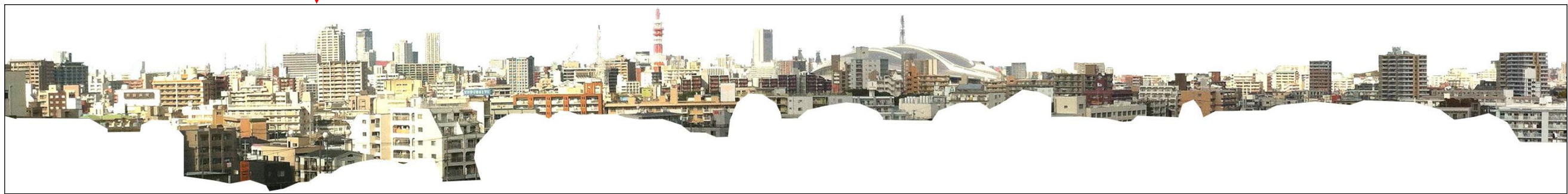


緑豊かな外構やオープン外構による交流促進（イメージ）



3. 色彩に関する分析

- ・ 計画対象地周囲の色彩の傾向を、現地写真を用いて分析
- ・ 市街地を一望できる地点からパノラマ写真を撮影し、市街地部分と山の部分を抽出
- ・ 山については、撮影時に雲の影に入っている部分が少なくなるよう分析範囲を設定



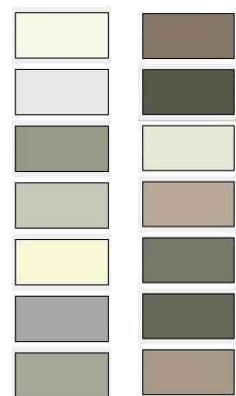
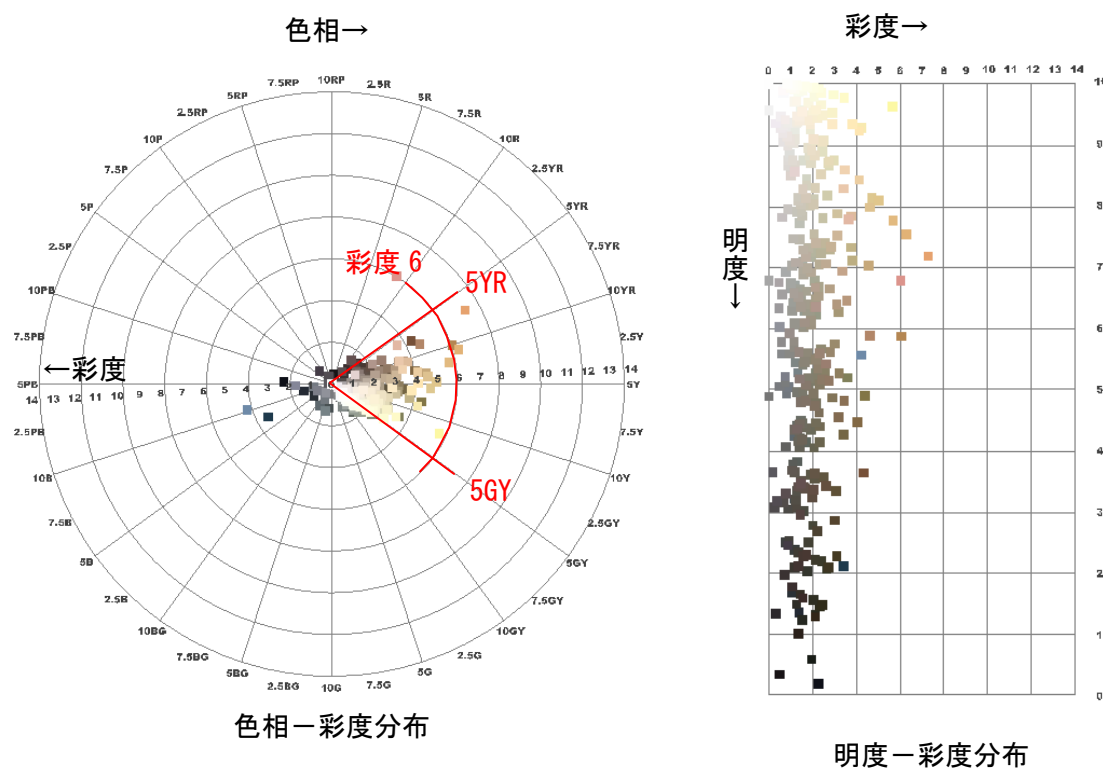
○分析結果から望まれる色彩上の配慮

- ・計画地の色彩を周辺市街地と調和させるため、次のような配慮が望まれる。
「グレー～ベージュ～緑系の色相 (5YR～5GY) から大きく逸脱しない色を用いる。」
「彩度は概ね6程度以下に抑える。」
- ・彩度0～3：落ち着いたイメージ
- ・彩度3～6：楽しく賑わいのある雰囲気を演出



○市街地部分の色の分析結果

- ・色相についてはグレーからベージュ系 (5YR～5GY) の色が多い。
- ・彩度は低い色 (概ね6以下) が多い。
- ・明度にはばらつきがあるが、影の部分等の色を拾っていることも考えられる。

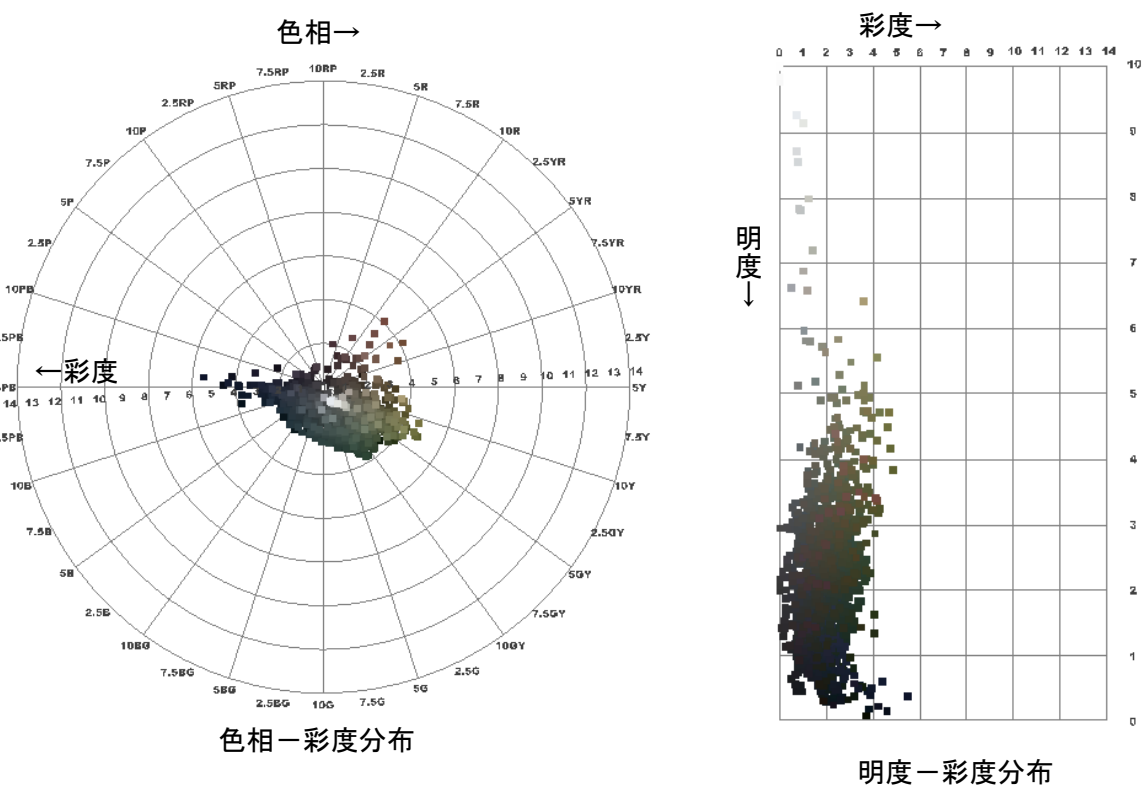


出現頻度の高い色
(3.5～1.7%)



山部分の色の分析結果 (参考)

- ・緑系の色が多いが、紅葉による茶系の色が混在している。
- ・彩度、明度とも低い色が多い。



出現頻度の高い色
(10.0～2.0%)

